

今年度の美瑛富士における取り組みについて

2015. 12. 21

取り組みの概要



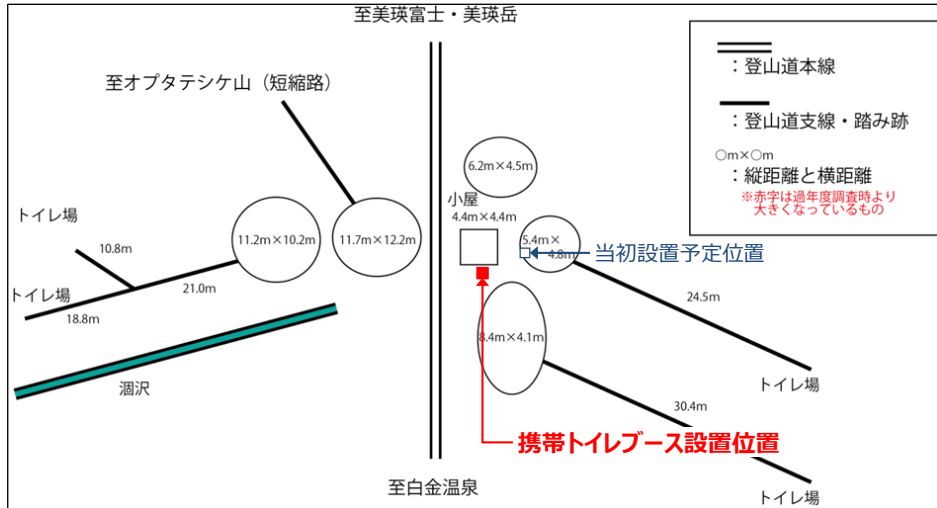
国土地理院

実施項目	担当	
携帯トイレブースの設置	環境省北海道地方環境事務所	*美瑛富士トイレ管理連絡会
使用済み携帯トイレ回収ボックスの設置	山のトイレを考える会	北海道内山岳関係団体・山のトイレを考える会 等で構成
携帯トイレブース及び周辺の点検・清掃	美瑛富士トイレ管理連絡会*	**関係機関
回収ボックスの維持管理	美瑛町	環境省北海道地方環境事務所、林野庁 上川 中部森林管理署、北海道上川総合振興局、美 瑛町
使用済み携帯トイレの回収・処分	美瑛町	
取り組みの広報	関係機関**・山のトイレを考える会	

図 平成 27 年度の美瑛富士避難小屋における携帯トイレの試行的取り組みの概要

携帯トイレブースの設置・回収

設置概要

設置箇所	美瑛富士避難小屋  この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院長発行の数値地図(国土基本情報)、電子国土基本図(地図情報)を使用しました。(承認番号 平28情使 第120号) 
設置日	平成 27 年 6 月 28 日 (日)
回収日	平成 27 年 9 月 27 日 (日)
【参考】 点検パトロール実施日	平成 27 年 7 月 11 日 (土) 白老山岳会 (9 名) 7 月 20 日 (月・祝) 日本山岳会北海道支部 (5 名) 7 月 25 日 (土) 札幌山岳連盟 (7 名) 8 月 8 日 (土) 北海道山岳連盟 (11 名) 8 月 23 日 (日) 道北勤労者山岳連盟 (10 名) 8 月 29 日 (土) 大雪山国立公園パークボランティア連絡会 (4 名) 9 月 6 日 (日) 北海道道央地区勤労者山岳連盟 (12 名) 9 月 15 日 (火) 北海道山岳ガイド協会 (3 名) ※「美瑛富士トイレ管理連絡会」実施

利用状況の調査

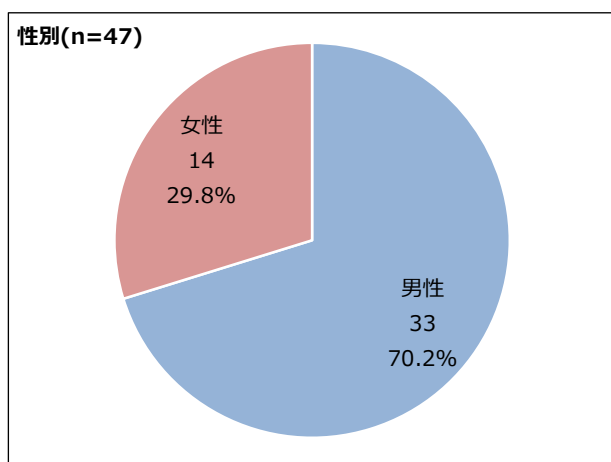
アンケート調査

実施日時・体制	平成 27 年 7 月 19 日 (日) 12:30～16:30 天候:晴れ 7 月 20 日 (月・祝) 9:00～17:00 天候:晴れ 8 月 1 日 (土) 12:30～17:00 天候:晴れ (※前日～未明にかけて大雨) 8 月 2 日 (日) 8:45～17:00 天候:晴れ時々曇り (※山上は曇り) ・愛甲准教授の助言を基に利用者が多いと考えられる日を上記と想定し、1泊2日の調査を2回、計4日間実施
実施箇所	・美瑛富士登山口：登山者名簿記入所・案内標識設置箇所付近   
実施方法	・下山者を対象とした対面式アンケート調査 ・回答を承諾していただいた下山者に、バイダーに挟んだ調査票を筆記具とともに渡して回答の記入を依頼（質問があれば随時回答） ・調査票は A4 判 3 枚片面印刷・ホチキス左上 1 箇所留め ・調査員は腕章（「国立公園調査員」：東川自然保護官事務所より借用）及びビブスを着用 ・調査中の写真撮影及び登山口通過人数（下山者数／入山者数）の記録 ※愛甲准教授の“調査票の回収数だけでなく、何人中何人の回答かがわかるよう調査時の登山者数も記録しておくべき”との助言を受けて 

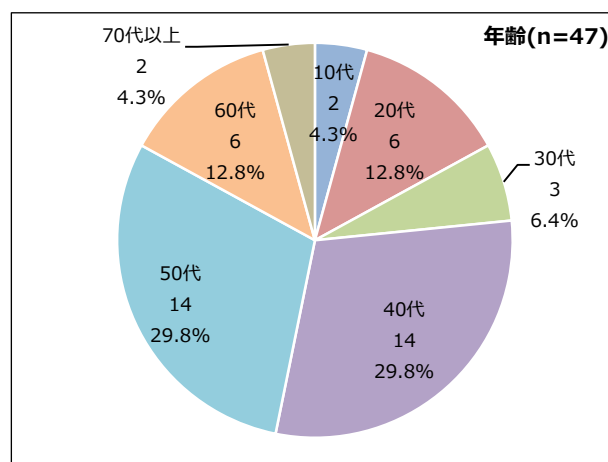
調査票・筆記具を挟んだバイダー

(1) 回答者の属性

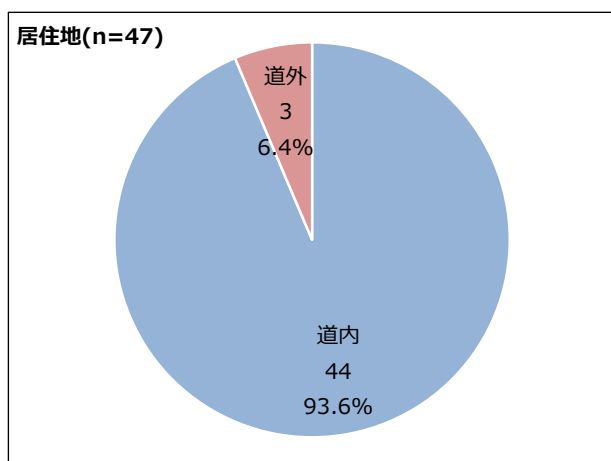
- 回答者の性別は、「男性」が約 7 割、「女性」が約 3 割である。
- 回答者の年齢は、「40 代」・「50 代」が同数で最も多く、それぞれ約 3 割である。次いで「20 代」・「60 代」が同数で約 13%である。50 代以上が半数近くを占めている。
- 回答者の居住地は、道内が 9 割以上を占め、その多くが石狩・空知・上川管内である。
- 回答者の団体等への所属については、「山岳団体（大学や社会人）」所属が 15 名、「自然観察を行うクラブ・サークル」所属が 2 名である。なお、「山岳団体（大学や社会人）」所属（15 名）には、美瑛富士トイレ管理連絡会点検パトロール員（日本山岳会北海道支部、以下「パトロール員」）4 名、北海道大学水産学部ワンダーフォーゲル部員 8 名が含まれる。



回答者の性別



回答者の年齢



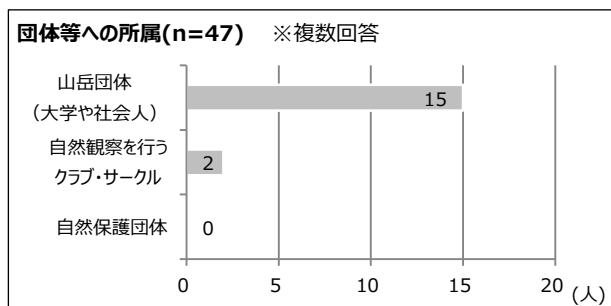
回答者の居住地

道内居住者（44 名）内訳

- 札幌市（18 名）
- 旭川市（8 名）
- 函館市（8 名）※北海道大学水産学部ワンダーフォーゲル部
- 恵庭市・千歳市・滝川市・美瑛市・北広島市・帯広市・美瑛町・上富良野町・中富良野町（各 1 名）

道外居住者（3 名）内訳

- 茨城県・福井県・大阪府（各 1 名）

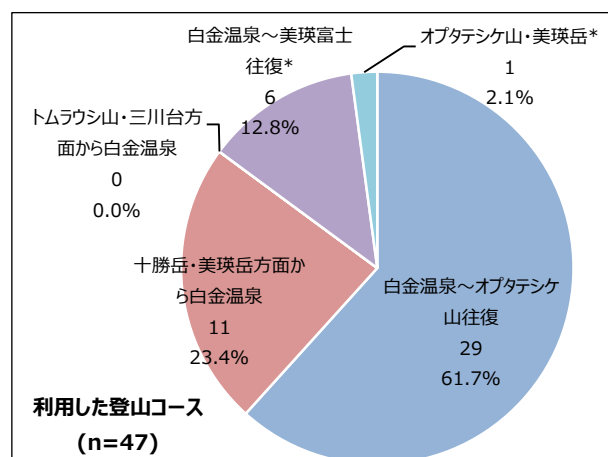


回答者の団体等への所属

(2) 登山形態

■ 利用した登山コース(行程概略):問 01

- 「白金温泉～オプタテシケ山往復」が61.7%で最も多かった。
- 「トムラウシ山・三川台方面から白金温泉」を利用した回答者はいなかった。
- 調査票の選択肢を設けていなかった「白金温泉～美瑛富士往復」や「オプタテシケ山・美瑛岳」を利用した回答者がみられた。なお、「白金温泉～美瑛富士往復」の6名の中にはパトロール員4名が含まれる。
- 8月2日(日)の調査実施箇所の天候は概ね良好であったが、山上の天候は曇りであったとのことで、オプタテシケ山を目指していたが途中で引き返してきた、という回答者が数名いた。[調査中の回答者との会話より]

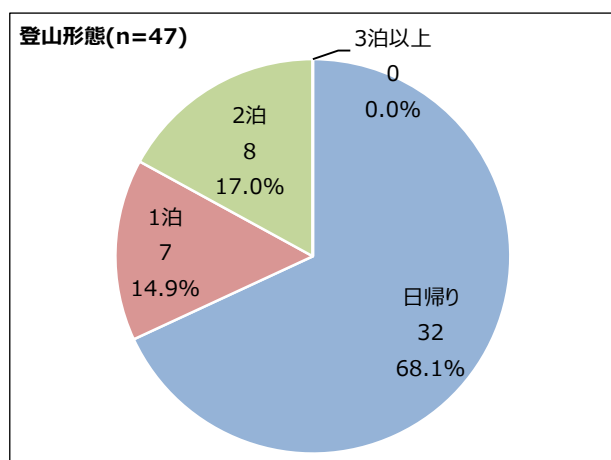


* 調査票の選択肢に該当しないものを直接聞き取り集計

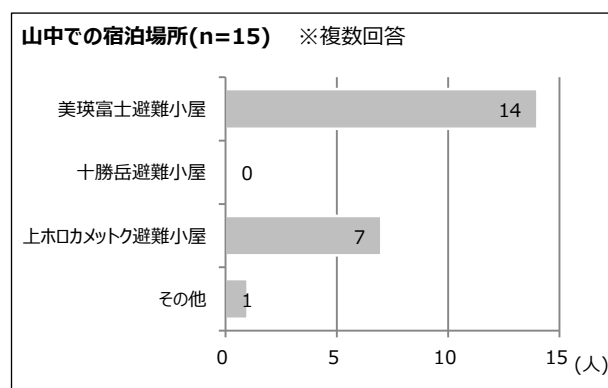
利用した登山コース

■ 登山形態(日帰り/宿泊・宿泊地):問 02

- 「日帰り」が7割近くを占めた。
- 「三泊以上」とする回答者はいなかった。
- 「一泊」・「二泊」と回答した15名の山中での宿泊場所は、14名が「美瑛富士避難小屋」、7名が「上ホロカメットク避難小屋」であった。



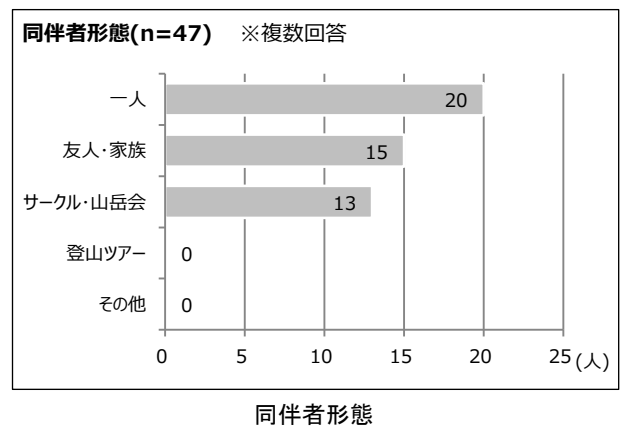
登山形態



山中での宿泊場所

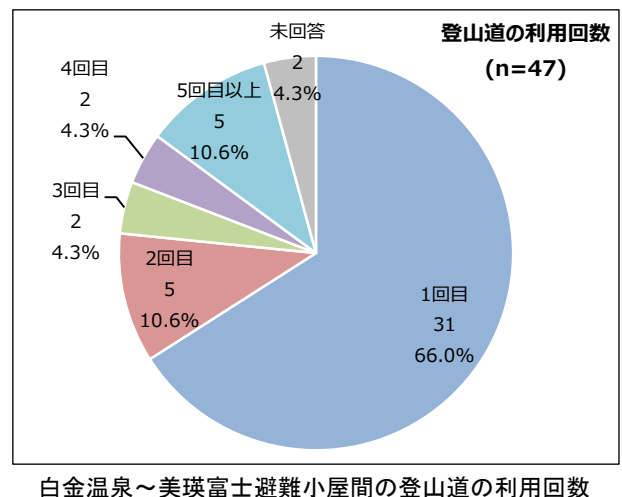
■ 同伴者形態:問 03

- 「一人」が最も多かった。
- 「登山ツアー」・「その他」とする回答者はいなかった。



■ 白金温泉～美瑛富士避難小屋間の登山道の利用回数:問 04

- 白金温泉～美瑛富士避難小屋間の登山道の利用回数は、「1 回目」が 7 割近くで最も多かった。
- 次いで、「2 回目」・「5 回目以上」が同数でそれぞれ約 1 割であった。

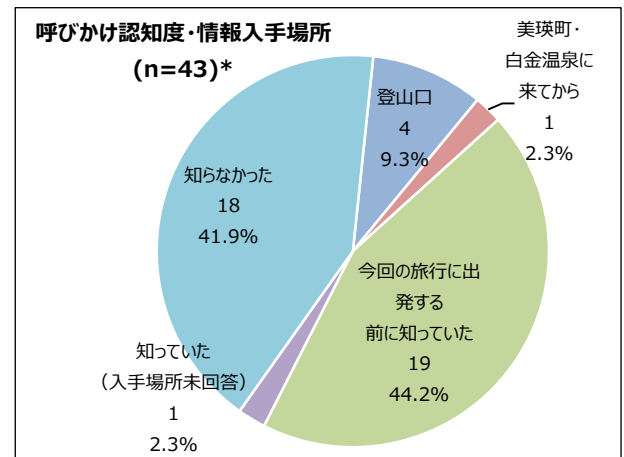


白金温泉～美瑛富士避難小屋間の登山道の利用回数

(3) 携帯トイレ

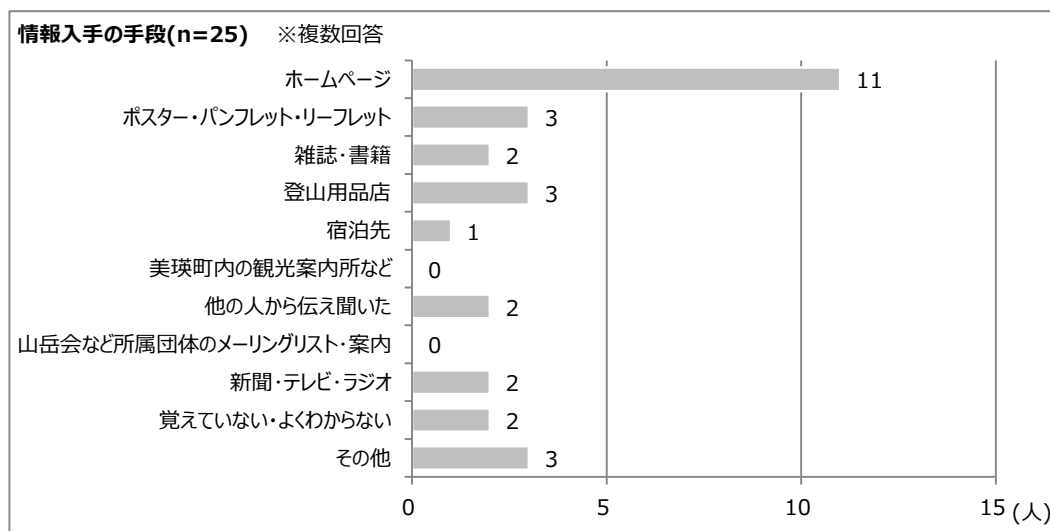
■ 携帯トイレ利用の呼びかけの認知度・情報入手場所・手段:問 05

- 美瑛富士避難小屋の携帯トイレブース維持管理の関係者であるパトロール員を除いた回答者の 6 割近くが携帯トイレの利用の呼びかけについて知っており、回答者の 44.2%が出発前に情報を入手していた。
- ただし、“今回の旅行に出発する前に知っていた”の中には、美瑛富士に限らない携帯トイレの取り組み全般のことと勘違いしている回答者も含まれている可能性がある。
- 情報入手の手段は、「ホームページ」が最も多く、具体的なホームページとして複数の回答者から「ヤマレコ」が挙げられた。[調査中の回答者との会話より]
- 情報入手の手段の「その他」として、「旭岳ビジターセンター」、「山中キャンペーン」が挙げられた。



* パトロール員（4名）の回答を除いて集計

携帯トイレ利用の呼びかけの認知度・情報入手場所

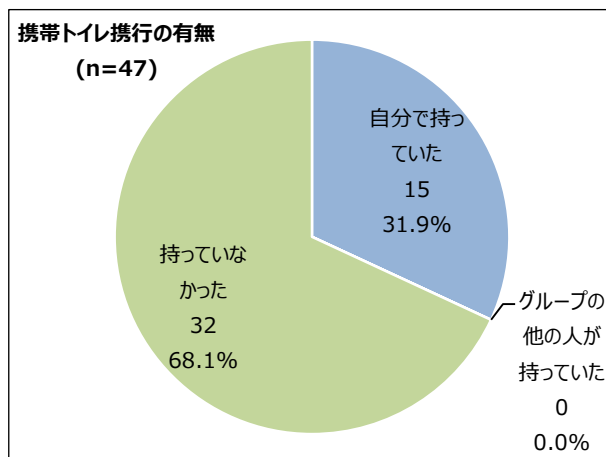


* パトロール員（4名）の回答を除いて集計

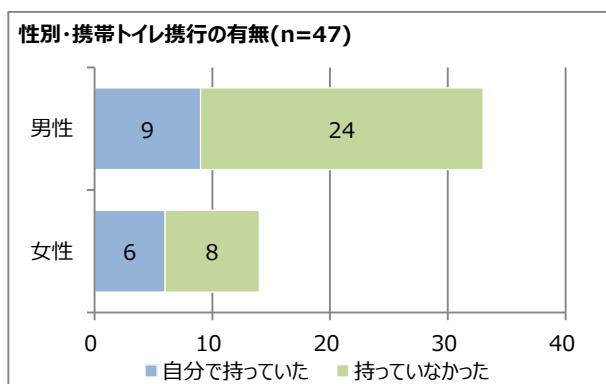
情報入手の手段

■ 携帯トイレ携行の有無:問 06

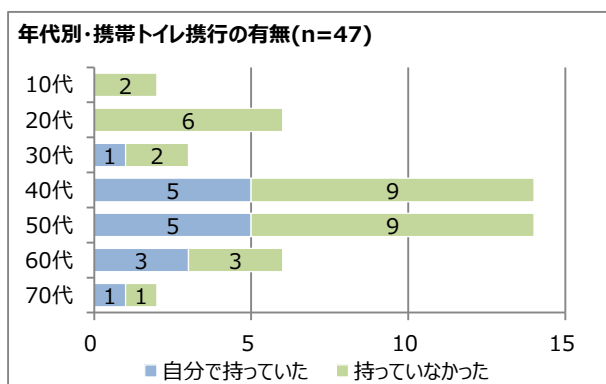
- 回答者の約 7 割が携帯トイレを持っていなかった。
- 女性の回答者の半数近くが携帯トイレを携行していたのに対し、男性の回答者では携帯トイレを携行していたのは 3 割に満たなかった。
- 年代別でみると、携帯トイレを携行している割合が比較的高かったのは 40 代～60 代であった。



携帯トイレ携行の有無



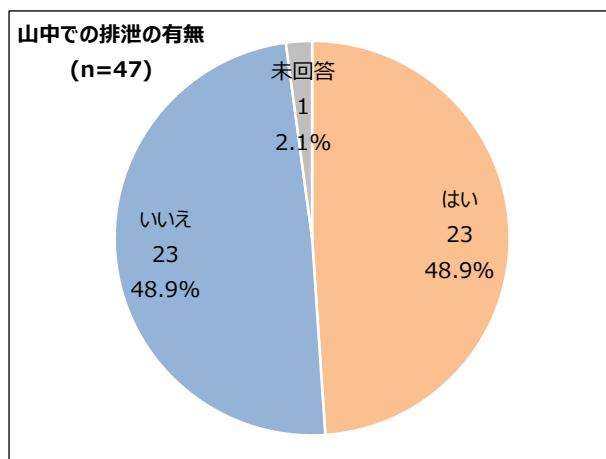
携帯トイレ携行の有無（性別）



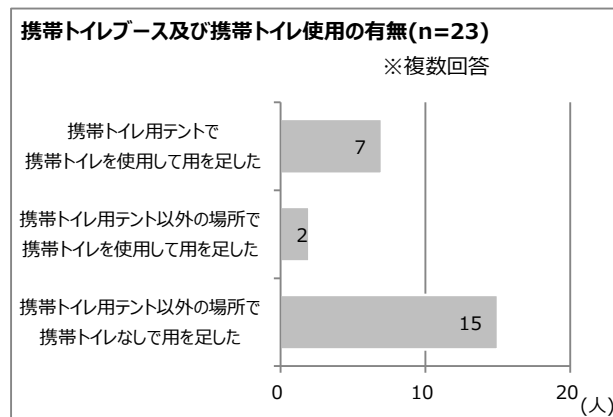
携帯トイレ携行の有無（年代別）

■ 山中での排泄の有無、携帯トイレブース及び携帯トイレ使用の有無:問 07

- 山中での排泄の有無は、ほぼ半々であった。
- 携帯トイレブース（携帯トイレ用テント）の使用は 7 名で、山中で用を足した人（23 名）の 3 割程度（全回答者の約 15%）であった。なお、7 名の中にはパトロール員 4 名が含まれていた。



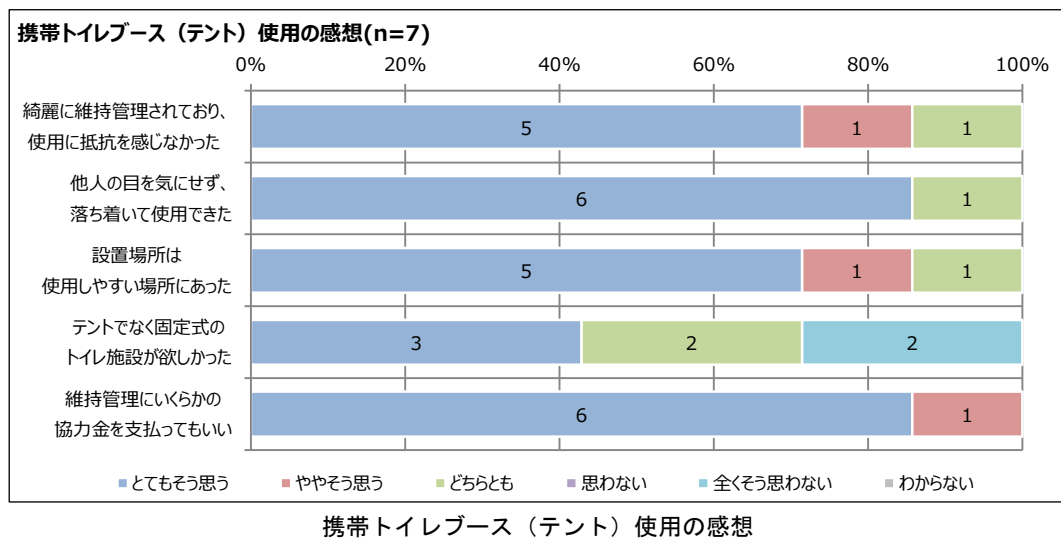
山中での排泄の有無



携帯トイレブース及び携帯トイレ使用の有無

■ 携帯トイレブース(テント)使用の感想:問 07

- 携帯トイレブース（テント）使用者（7名）の感想は肯定的であった。
- 「綺麗に維持管理されており、使用に抵抗を感じなかった」・「他人の目を気にせず、落ち着いて使用できた」・「設置場所は使用しやすい場所にあった」・「維持管理にいくらかの協力金を支払ってもいい」に対する否定的な感想はなかった。
- 「テントではなく固定式のトイレ施設が欲しかった」については、“どちらとも”及び“全くそう思わない”をそれぞれ2名が選択した。

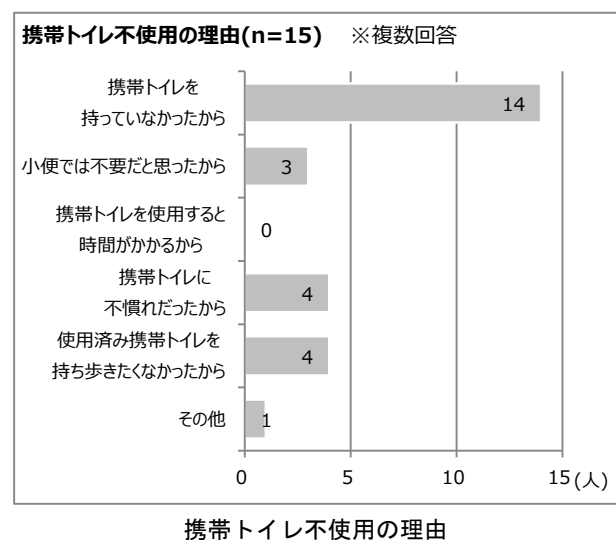


■ 携帯トイレブース不使用の理由:問 08

- 携帯トイレブース以外の場所で携帯トイレを使用して用を足した人（2名）は、それぞれ「近くに携帯トイレ用テントがなかったから」、「小便ではテントは不要だと思ったから」を理由として挙げていた。

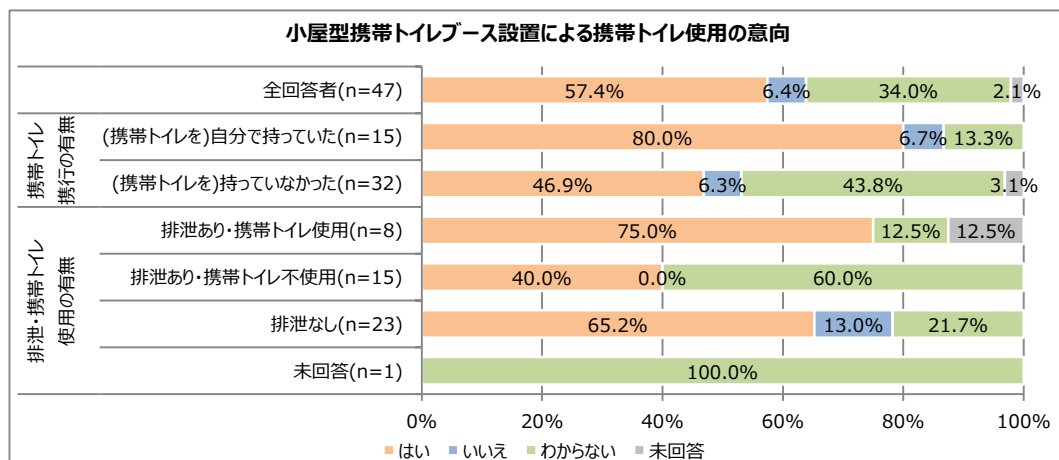
■ 携帯トイレ不使用の理由:問 09

- 携帯トイレなしで用を足した人（15名）のほとんどが、携帯トイレを使用しなかった理由として「携帯トイレを持っていなかったから」を挙げた。
- 「その他」として、“ザックの奥にあってみつけれなかった”が挙げられていた。



■ 携帯トイレ用小屋型ブース設置による携帯トイレ利用の意向：問 10

- 全回答者の 6 割近くが、利尻山などで導入されている携帯トイレ用小屋型ブースが美瑛富士に設置されれば携帯トイレを使用する意向を示した。
- 回答者の携帯トイレ携行の有無別（問 06）でみると、携帯トイレを持っていた回答者では 80%が携帯トイレを使用する意向を示したのに対し、持っていなかった回答者では携帯トイレを使用する意向を示したのは半数以下で、“わからない”とする回答も 4 割を超えた。
- 山中での用便の有無及び携帯トイレ使用の有無別（問 07）でみると、携帯トイレを使用した回答者では 75%が携帯トイレを使用する意向を示したのに対し、携帯トイレを使用しなかった回答者では携帯トイレを使用する意向を示したのは 40%、“わからない”とする回答が 60%であった。

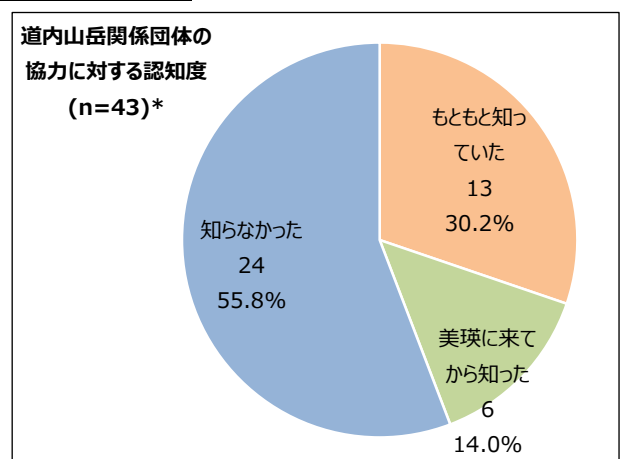


※排泄あり・携帯トイレ使用：問 07 で、“携帯トイレ用テントで携帯トイレを使用して用を足した”もしくは“携帯トイレ用テント以外の場所で携帯トイレを使用して用を足した”を選択した回答者（両方選択した回答者が 1 名）

小屋型ブース設置による携帯トイレ利用の意向

■ 維持管理における道内山岳関係団体の協力に対する認知度：問 11

- 美瑛富士避難小屋の携帯トイレブース維持管理の関係者であるパトロール員を除いた回答者では、「もともと知っていた」と「美瑛に来てから知った」を合わせると、回答者の半数近くが、美瑛富士避難小屋の携帯トイレブースの維持管理に北海道内の山岳関係団体が協力していることを知っていた。



* パトロール員（4 名）の回答を除いて集計

道内山岳関係団体の協力に対する認知度

■ 携帯トイレの普及に関する意見・感想(自由回答)

- 以下 3 件の回答を得た（原文のまま）。
 - 今日は登山前に用を足したので必要ないと思ったが、トイレブースは必要だと思った。次回からは携帯トイレを持っていこうと思う。(男性・50代・旭川市)
 - テント、ブースを、各山に多山設置してほしいです。(女性・60代・札幌市)
 - 携帯トイレの普及にキャンペーンしてほしい。大雪・十勝以外も。(女性・60代・札幌市)

ヒアリング

ヒアリング実施概要

ヒアリング対象者

	美瑛	上富良野	その他
観光センター	白金観光センター		
ホテル・売店等	永井商店 山辺の家族 大雪山白金観光ホテル(+ 白金温泉ホテル) 国立大雪青少年交流の家	ホテルパークヒルズ 森の旅亭びえい バーデンかみふらの 白銀荘	
ガイド	美瑛・白金ネイチャークラブ		
山岳関係団体	美瑛山岳会	上富良野十勝岳山岳会	美瑛富士トイレ連絡会事務局
行政機関等	美瑛町	上富良野町	北海道上川総合振興局 上川中部森林管理署 上川南部森林管理署

ヒアリング結果

■ 美瑛町側・上富良野町側に共通

- 今シーズンの美瑛富士での取り組みに関する利用者の反応は特になかったとの回答が大多数。
- 全てのヒアリング対象者が、取り組み全般に関して迷惑を感じたことはないと回答。携帯トイレの販売や回収ボックスに関する利用者や地元からの苦情・トラブル、回収ボックス以外の場所への使用済み携帯トイレの残置もなし、とのこと。
- 携帯トイレの販売や回収ボックスの設置位置・鍵番号に関する問い合わせはなかったとする関係者が多く、問い合わせがあってもその数は少数。
- 山岳関係団体以外の関係者は現地を見ていない方がほとんどであったため、美瑛富士避難小屋周辺の状況の変化はわからないとの回答が大多数。現地を訪れた関係者は、以前より改善した印象を受けた模様。
- 全般的に、来年度以降の取り組みにおいて、携帯トイレの販売や、チラシを置く・掲示するといった協力に前向きな反応。
- 複数のヒアリング対象者が、“使用済み携帯トイレは持ち帰りが原則ではないか”との考え。
- 複数の関係者が、外国人客の増加への対応に関心・懸念を抱いている。

■ 美瑛町側

- 美瑛町側の全てのヒアリング対象者が、取り組み開始前の説明を受けていたことから、美瑛富士での携帯トイレの取り組みについて知っていた。
- シーズン中に携帯トイレ販売に関する問い合わせがあり、組合で一括購入し、商店や各宿泊施設で販売。販売価格は白金地区で一律 540 円（税込）。

■ 上富良野町側

- 美瑛富士での携帯トイレの取り組みについて知っていたのは、一部の関係者のみ。
- 携帯トイレを販売している宿泊施設はないが、今後の携帯トイレの販売に対しては関心がある。美瑛町側や大雪山全体で販売価格に差が出ないように配慮が必要との意見もあった。
- 美瑛町・上富良野町の足並みを揃えることも必要との考え。

国内他地域における携帯トイレブース運用の事例

利尻山

■ 役割分担

実施項目	担当
携帯トイレの販売	観光協会、市街地の売店、旅館・ホテル、キャンプ場 等
登山口トイレの管理	利尻町、利尻富士町
携帯トイレブースの点検・清掃・補修	利尻山登山道等維持管理連絡協議会 パークボランティア、山岳ガイド、地元有志等も参画
回収ボックスの維持管理	利尻町、利尻富士町
使用済み携帯トイレの回収・処分	利尻町、利尻富士町
取り組みの周知・広報	利尻山登山道等維持管理連絡協議会（利尻町・利尻富士町・環境省の協働）

■ 携帯トイレブース

設置箇所	設置者	設置時期	構造	設置方法	設置金額
鷺泊コース6.5合目	環境省	平成19年度	木製小屋式	ヘリ輸送	9,310千円 5台分本体込工事費 FRP製一体型ブース3基撤去費含む ヘリ輸送費は計上なし
鷺泊コース8合目（2基）				現地組立	
鷺泊コース9合目					
沓形コース8.5合目	国立公園連絡協議会	平成14年度	一体型FRP製	ヘリ輸送	約25万円（本体価格）
沓形コース6合目					

- 上記の他、姫沼ポン山トレッキングコースのルート上に FRP 製ブースが1基設置されている。

■ 携帯トイレの販売

- 島内の業者（利尻町は観光協会）が仲卸となり、島内全宿泊施設、観光物産店、商店、コンビニエンスストア、フェリーターミナル観光案内所、キャンプ場、温泉施設（利尻富士町内）等で販売
- 利尻島内での販売価格は 400 円（税込）：（株）総合サービス社製・サニタクリーン
- 以前は、山中でのスムーズな利用のため、利尻島内で販売する携帯トイレには、使い方や携帯トイレブースの位置を紹介するリーフレットを同梱。現在は、同梱している便袋（使用後の携帯トイレの収納袋）自体に使用方法が印字されていること、ブースの位置についても、登山口の案内看板等にも表示済のため、別添でリーフレット等は同梱していない



※画像提供：

利尻富士町産業振興課商工観光係

■ 回収ボックス

- 鴛泊登山口 2 箇所（利尻富士町管理）、杓形登山口 1 箇所（利尻町管理）に設置
- 姫沼ポン山トレッキングコースの姫沼側入口付近にも 1 箇所設置（利尻富士町管理）
- 平成 25 年から携帯トイレとして使用された尿入りペットボトルの放置がみられる（鴛泊コース登山口回収ボックスに 18 個：平成 26 年度）

■ 使用済み携帯トイレの回収・処分

- 鴛泊コース登山口では、登山口にあるキャンプ場管理人が回収数を数えて一般ゴミとして回収し、利尻郡清掃施設組合がキャンプ場のゴミとともにゴミ収集車で収集・運搬
- 杓形コース登山口では、利尻町職員が定期的に回収に行き、回収数を数えて町内に運搬し、一般ゴミとして処理
- 処分は、両町が共同使用しているゴミ焼却場（利尻郡ゴミ焼却処理場）で袋ごと焼却処分

■ 取り組みの周知・広報

- 関係機関のホームページ、ガイドブック掲載、ポスター掲示、島外の旅行エージェントや登山ガイド等へのチラシ配布（右図）、宿泊施設等での案内等を実施
- ここ数年は、登山客が多く訪れる 7 月中旬の週末（3 連休）あたりを目掛けて各登山口にて、「利尻ルール」を周知するイベントを開催
- 特に取り決めがあるわけではないが、シーズン後だと次年度のシーズン期までに情報が風化するため、島内外の関連事業者への周知はシーズン直前（5 月頃）に行うことを推奨し実施
- 当初は島内宿泊施設や主要の公共施設（フェリーターミナル等）への呼びかけであったが、島外関係者への周知先を追加することで、合理的な周知方法にシフト
 - 旅行エージェント、ガイド、山岳関係団体、自然保護団体、登山用品店、山岳関係ガイドブックライター、学校等（配布先：50～60 件程度）
- 地元ルールとなる「利尻ルール」を提示し、ルールの中の 1 つとして発信し始めたことが、「携帯トイレの山」としてのイメージを定着させるきっかけの 1 つとなった可能性

■ その他

- 両登山口にトイレあり（利尻町・利尻富士町管理）



チラシ

※画像提供：利尻富士町産業振興課商工観光係



利尻山トイレマップ

※「北海道・山のトイレマップ 大雪山・十勝連峰・利尻山・知床」（山のトイレを考える会作成）より抜粋

<http://www.yamatoilet.jp/mtclean/toilemap/2013toiletmap.htm>

アポイ岳

■ 役割分担

実施項目	担当
携帯トイレの販売	アポイ岳ジオパークビジターセンター、アポイ山荘、様似観光案内所（JR 様似駅構内）
登山口トイレの管理	様似町・アポイ岳ジオパークビジターセンター
携帯トイレブースの点検・清掃・補修	アポイ岳ファンクラブ
回収ボックスの維持管理	様似町・アポイ岳ジオパークビジターセンター
使用済み携帯トイレの回収・処分	様似町
取り組みの周知・広報	様似町・アポイ岳ジオパークビジターセンター

■ 携帯トイレブース

- 平成 25 年より、アポイ岳 5 合目山小屋付近にテント式携帯トイレブース（株式会社小川キャンパル・プライベートテント ST-III）を 2 基設置（様似町設置）。アポイ岳ファンクラブを中心に管理
- 目隠しとなる衝立、誘導看板を設置。ブース内に利用マナー等を掲示
- 平成 25 年度に購入したテントを継続して使用していたが、平成 27 年度シーズンの終盤に強風により破損。平成 28 年度もテント式トイレブースで取り組み実施の予定



携帯トイレブース・衝立

※山のトイレを考える会ホームページより

http://yamatoilet.jp/mtclean/apoi_keitai.htm

■ 携帯トイレの販売・配布

- アポイ岳ジオパークビジターセンター、アポイ山荘、様似観光案内所（JR 様似駅構内）で販売。販売価格は 500 円（税込）。携帯トイレブース内にも緊急用に数セット設置（有料：使用後にアポイ岳ジオパークビジターセンターにて代金を支払い（数名））
- 啓発のための無料配布用携帯トイレを 300 セット用意（平成 25 年度）。学校やイベント・催し物の際に配布
- アポイ岳ジオパークビジターセンターでの携帯トイレ販売個数は 61 個、啓発用に無料配布した携帯トイレは約 100 個（平成 25 年）

■ 回収ボックス

- 登山口付近に木製の回収ボックスを設置（様似町設置・管理（アポイ岳ジオパークビジターセンター））



回収ボックス

※山のトイレを考える会ホームページより

http://yamatoilet.jp/mtclean/apoi_keitai.htm

■ 取り組みの周知・広報

- 携帯トイレを取り扱うアポイ岳ジオパークビジターセンターにおいて、携帯トイレの使用方法的な掲示、啓発パンフレット等の配布
- 山のトイレを考えるフォーラムでの発表やアポイ岳ファンクラブ会報への掲載等。旅行エージェント等へのチラシ等配布は行っていない
- これまで、ジオパーク認定に至る動きと携帯トイレの取り組みを関連づけた周知・広報は行っていない。アポイ岳ファンクラブの活動への評価がジオパーク認定にも大きく貢献し、その取り組みの1つが携帯トイレの取り組みであることから、今後はジオパークと関連づけた周知・広報を行うことを検討

■ その他

- 登山口にトイレあり



アポイ岳登山コース

※様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会ホームページより（2015年11月20日）

http://www.apoi-geopark.jp/course/course_03.html

早池峰山

■ 役割分担

実施項目	担当
携帯トイレの販売	「携帯トイレサポート早池峰」
登山口トイレの管理	峰南荘（委託） 早池峰地域保全対策事業推進協議会（事務局：岩手県県南広域振興局）設置
携帯トイレブースの点検・清掃・補修	花巻市・遠野市 岩手県環境生活部自然保護課設置
回収ボックスの維持管理	峰南荘（委託） 早池峰地域保全対策事業推進協議会（事務局：岩手県県南広域振興局）設置
使用済み携帯トイレの回収・処分	峰南荘（委託）
取り組みの周知・広報	早池峰地域保全対策事業推進協議会

- 携帯トイレなどの推進については、「早池峰地域保全対策事業推進協議会」の「山頂避難小屋あり方検討部会」で議論しながら取り組みを推進
- 早池峰地域保全対策事業推進協議会
 - ・ 早池峰地域の豊かですぐれた自然環境を将来に引き継ぐため、民間団体等と行政機関が連携して、自然環境の保護と適正利用を目指した保全対策事業を推進することを目的として設置
 - ・ 【利用者のマナー向上対策に関すること】、【高山植物盗採防止対策に関すること】、【自動車利用適正化対策に関すること】等に関する検討、企画、調整及び推進
 - ・ 山岳関係団体、自然保護関係団体、管理員、観光業等団体、報道機関、国（岩手南部森林管理署遠野支署、三陸北部森林管理署、東北地方環境事務所盛岡自然保護官事務所）、花巻市、遠野市、宮古市、岩手県で構成

■ 携帯トイレブース

- 平成 25 年に閉鎖された山頂避難小屋トイレ（岩手県環境生活部自然保護課設置・花巻市管理委託）を携帯トイレブースとして使用（全 3 室：増設用にテントを用意）。平成 26 年度から通年で携帯トイレ専用として位置づけ
- 小田越コース 1 合目手前の樹林帯にテント式携帯トイレブースを設置（岩手県環境生活部自然保護課設置・遠野市管理員管理）

■ 携帯トイレの販売

- 「携帯トイレ『サポート早池峰』（携帯トイレ管理組織：グリーンボランティアと「早池峰にゴミは似合わない実行委員会」の有志により立ち上げ）により、登山口及び山頂避難小屋に携帯トイレ無人販売箱を設置して現地で販売している他、早池峰クリーン&グリーンキャンペーン（後述）期間中は、河原の坊及び小田越両登山口でテントにて販売
- 販売価格は 400 円（税込）
- ハヤチネウスユキソウの写真入りの使用方法説明書を同梱
- 販売個数は 4,515 個（平成 26 年度）。販売個数は増加傾向（平成 22 年度：2,052 個）



携帯トイレ無人販売箱

※いわて自然公園特派員だより（岩手県自然保護課）ホームページより
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0316/mt_of_iwate/hayatane/20151105okano/1105okano.html

■ 回収ボックス

- 4箇所（小田越、河原の坊、峰南荘前、岳駐車場）設置（6月～10月）（早池峰地域保全対策事業推進協議会（事務局：岩手県県南広域振興局）設置・峰南荘管理（委託））
- 合計で1,507個の使用済み携帯トイレを回収（平成26年度）。平成25年度以降、回収数が増加（平成24年度：627個→平成25年度：1,589個）

■ 使用済み携帯トイレの回収・処分

- 仮設トイレの管理業務受託者（峰南荘）が回収・処分
- 回収は週1回、一般廃棄物として焼却処分

■ 取り組みの周知・広報

- 車両交通規制やシャトルバス運行の周知と併せて事前の周知・広報を実施
 - ・ 岩手県ホームページ掲載：「早池峰マナーについて」
<http://www.pref.iwate.jp/shizen/shizen/shizenkouen/002887.html>（2015年11月18日）
- 取り組みに係るチラシ配布
 - 全国旅行会社・登山用品店・山岳関係団体・各都道府県・県内市町村等288箇所
- 取り組みの周知依頼
 - 環境省、各都道府県、県政記者クラブ、都道府県記者クラブ、山岳関係団体、山岳関係誌発行社等
- 地域でのお知らせチラシ掲示
 - 岳駐車場、河原の坊総合休憩所、小田越監視員詰所、避難小屋（3箇所）、宿泊施設等
- 早池峰クリーン&グリーンキャンペーン
 - ・ 自然環境保全と利用者マナーの向上を主な目的として、「早池峰地域保全対策事業推進協議会」構成メンバーとグリーンボランティアの協働によるキャンペーン。毎年6月第2日曜日から8月第1日曜日までの土日祝日に、河原の坊登山口・小田越登山口・早池峰山帳・各登山道にて実施
 - ・ 車両交通規制への対応、シャトルバスの案内、ボランティアの巡回による盗掘監視・移入植物駆除・清掃活動等とともに、携帯トイレの普及啓発を実施
 - ・ ボランティア参加人数（延べ人数）は201名（平成26年度）

- 携帯トイレデー（携帯トイレを使ってみでけ DAY）の実施
 - 携帯トイレ専用化への移行を目指し、平成 21 年度の休日 2 日間の取り組みから徐々に日数を拡大し、平成 25 年度は 6 月 9 日～10 月 14 日までの 128 日間実施
 - 平成 25 年度で山頂避難小屋の汲み取り式トイレを閉鎖し、通年で携帯トイレ専用となったことを受け、期間限定の携帯トイレデー（携帯トイレを使ってみでけ DAY）ではなく、通年での携帯トイレの普及啓発・マナー向上の取り組みへと変更
 - 携帯トイレを使用する利用者は有料（携帯トイレの購入費）に対し、既存トイレを使用する利用者が無料では不公平感があり、携帯トイレの取り組みの推進の阻害要因になっている、との指摘から、携帯トイレ専用の日を設け検証を行うために開始

■ その他

- 登山前のトイレ使用を呼びかけるため、6 月～10 月に小田越登山口付近に仮設トイレ（大小兼用 3 基・小専用 1 基）を設置（早池峰地域保全対策事業推進協議会（事務局：岩手県県南広域振興局）設置・峰南荘管理（委託））

■ 市民団体・ボランティア等の関わり

- グリーンボランティア
 - 利用者に対する自然解説、マナーの普及啓発、高山植物保護等を行うことで、自然環境の適切な保護と安全、安心な利用を推進するとともに、県民一人ひとりの自然環境保全意識を啓発し、自然環境に配慮した行動の定着を図ることを目的とする登録制のボランティア活動。岩手県環境生活部自然保護課総括課長が認定。活動地域は、早池峰を含む岩手県内の自然公園や自然環境保全地域等
 - 18 才以上で、県内在住若しくは勤務地がある方が対象
 - 登録人数は、全体で 200 人、早池峰地域では 133 人
 - 岩手県（自然保護課又は県南広域振興局）が活動の企画や連絡調整等のコーディネート。グリーンボランティアからの自主的な活動の企画や案内もある（県で研修会などの経費の一部を補助することも実施）
 - 現状のボランティアのメンバーは以前から早池峰地域で活動していた早池峰ボランティアの会（通称：早ボ会）のメンバーが中心。新たな人の登録は多くないため、大学などに働きかけて若くて自然に興味のある学生等を勧誘
- これまで早池峰に関わりをもって活動してきた団体
 - 岩手県勤労者山岳連盟：早池峰山の清掃登山
 - 早池峰フォーラム実行委員会：「早池峰フォーラム」の開催
 - 和賀川水系の自然を考える会：早池峰の保護、携帯トイレの普及
 - 早池峰の自然を考える会：早池峰の大規模林道問題への取り組み、エコツアー開催
 - 早池峰クマタカ研究会：早池峰のクマタカ保護・研究
 - 早池峰の里元気倶楽部（旧・大迫自然の会）：オーバーユース・高山植物盗掘の対策として、1 日だけであるが自前でバスを借り切りシャトルバス（やまねこバス）を運行

■ 山頂避難小屋トイレの携帯トイレブース専用化に至る経緯

1963年 (S38)	● 山頂避難小屋トイレ設置（貯留式）
1986年 (S61)	● 山頂避難小屋トイレ改築（地下浸透式）
↓	富栄養化による高山植物への影響、水場の水質への懸念
1993年 (H5)	【早池峰にゴミは似合わない実行委員会】が尿尿担ぎ下ろしを開始
1994年 (H6)	早池峰地域の沢水から大腸菌群検出
1997年 (H9)	【早池峰にゴミは似合わない実行委員会】がスポーツ用品店に携帯トイレの取り扱いを要請・使用開始
1998年 (H10)	【早池峰にゴミは似合わない実行委員会】が「し尿処理報告書」をまとめ岩手県自然保護課に提出・トイレの早期改善を要望 - シャトルバス運行開始 【早池峰フォーラム実行委員会】・【和賀川水系の自然を考える会】が山開きの登山客を対象に携帯トイレの普及活動を開始 - 自然浄化式污水处理システムでの山頂避難小屋トイレ改築を検討（岩手県）
1999年 (H11)	- 市民団体等による自然浄化式污水处理システムでの山頂避難小屋トイレ改築に対する反対運動 - 自然浄化式污水处理システムでの山頂避難小屋トイレ改築を見合わせ 【早池峰にゴミは似合わない実行委員会】・【早池峰フォーラム実行委員会】が早池峰山の総合的な問題を話し合う場設置を提案 「早池峰地域保全対策懇談会」設置（岩手県：～2001） - 早池峰地域の総合的な保全対策の中でトイレ問題を検討
↓	ボランティアが尿尿担ぎ下ろし作業を行いながら、“登山前の用意し”・“安心のための携帯トイレ所持”を利用者に周知する活動
2002年 (H14)	- 懇談会の提言を受けて、『早池峰地域の保全対策について』とりまとめ（岩手県自然保護課） 「早池峰地域保全対策推進協議会」設置（岩手県・現在も継続中） - 保全対策の実施にあたっては、構成員である行政、民間団体等が役割分担などの調整を図りながら推進 「利用者のマナー向上対策」、「高山植物盗採防止対策」、「登山車両の適正な規制」、「保全対策を講ずるための施設整備」等の保全対策を適時適切に推進 - 尿尿処理は、当面、【早池峰にゴミは似合わない実行委員会】を中心とするボランティアの協力を得て人力による担ぎ下ろしで対応 - 携帯トイレの普及や山麓トイレ使用の奨励などの活動を推進、避難小屋検討の際に併せて行うトイレの検討にその結果を反映 - 山頂避難小屋トイレの便槽の穴を閉塞（地下浸透式→汲み取り式） - 早池峰地域でのグリーンボランティア制度創設 「早池峰クリーン＆グリーンキャンペーン」開始（現在も継続中）
2008年 (H20)	「早池峰地域保全対策推進協議会」に「早池峰山山頂避難小屋あり方検討部会」設置 山頂避難小屋・トイレのあり方 ▶ 山頂周辺での避難小屋設置の必要性、既存施設の修繕による延命・活用 ▶ 携帯トイレの山を目指していく方向性 ← それまでの官民協働の保全対策の経緯や成果・全国的な評価をふまえて ▶ 携帯トイレ専用とする場合は利用者の声を十分に聞いて検討を行っていく必要性 携帯トイレ専用とする場合の課題 ▶ 携帯トイレの販売・回収のシステムづくり ▶ 管理母体の設置 ▶ 登山口トイレの整備
2009年 (H21)	- 携帯トイレデー【携帯トイレ使ってみでけDAY】実施（2日間・8:00～13:00） - 課題検討のため、携帯トイレ専用の日を設けて試行開始
2010年 (H22)	- 携帯トイレデー【携帯トイレ使ってみでけDAY】実施（7日間・8:00～13:00） - 携帯トイレ販売管理組織【携帯トイレサポート早池峰】立ち上げ - 課題「携帯トイレ販売・回収のシステムづくり」・「管理母体の設置」への対策 - 携帯トイレの仕入れ・販売を一貫して行う体制を確立、登山口・山頂避難小屋に携帯トイレ無人販売箱を設置 - 小田越登山口仮設トイレ設置 - 課題「登山口トイレの整備」への対策
2011年 (H23)	● 携帯トイレデー【携帯トイレ使ってみでけDAY】実施（30日間・終日）
2012年 (H24)	● 携帯トイレデー【携帯トイレ使ってみでけDAY】実施（121日間・終日）
2013年 (H25)	● 携帯トイレデー【携帯トイレ使ってみでけDAY】実施（128日間・終日） 2014年からは通年で携帯トイレ普及啓発・マナー向上の取り組みへ変更 ● 山頂避難小屋トイレ（汲み取り式）を閉鎖
2014年 (H26)	● 山頂避難小屋トイレを携帯トイレブース専用化 - ボランティアを中心とした尿尿担ぎ下ろし終了

